

揚子江中流域における生態農業の発展とその課題 - 湖北省潜江市の稻蝦連育の事例研究- : 平成23年度資 源環境経済学講座修士論文要旨

著者	易 思
雑誌名	農業経済研究報告
号	43
ページ	121
URL	http://hdl.handle.net/10097/56352

揚子江中流域における生態農業の発展とその課題

—湖北省潜江市の稲蝦連育の事例研究—

Development Issue of Ecological Agriculture in the Middle Basin of the Yangtze River

—Case Study of Crayfish-rice Rotation Farming in Qianjiang City, Hubei Province

易 思 (国際開発学分野)

【目的】

本研究は近代中国における急速な経済発展を背景に、揚子江中流域に位置する湖北省潜江市の生態農業モデルである稲蝦連育を研究対象として、生態農業の実態と発展過程を明らかにし、農家経済と地域経済及び環境への効果を解明することを目的としている。

稲蝦連育が及ぼす経済効果として具体的には、第一に農村雇用を創出しているか、第二に農家所得を向上しているか、第三に地域経済の発展につながっているかを検討する。環境の視点から見ると、生態農業が環境に優しい農業になるか、つまり、第一に廃棄物の循環利用をしているか、第二に農薬の使用量は減少しているか、第三に大切な水資源の有効利用に効果があるのかを検証する。

【材料と方法】

既存文献から、中国における生態農業の発展の歴史とその意義を纏める。それから、湖北省の農業発展の過程と生態農業の種類を整理した上で、湖北省潜江市の稲蝦連育農法に注目し、実態調査を行う。

筆者は2011年9月から2011年11月中旬まで、湖北省潜江市に現地調査を行った。湖北省潜江市統計局、潜江市水産局、潜江市小龍蝦養殖協会、湖北省「姜友余」小龍蝦養殖專業合作社、湖北莱克水産食品公司等を訪問し、資料、情報を収集し、潜江市積玉口镇古城村、積玉口村で35戸の農家の聞き取り及びアンケートによる調査を行った。それらのデータに基づいた分析・検証を通じ、上記の課題を明らかにし、今後の課題を提示する。

【結果と考察】

湖北省潜江市の稲蝦連育の実態調査を通じ、以下の結論を得た。

経済効果から見ると、1.雇用の創出：稲蝦連育は農村の雇用を増やし、農村労働力の流出を抑制している。2.農家経済の向上：稲蝦連育農家の1人当たり純収入は農家全体平均より高いことがわかる。また、面積あたりの農家純収入を増やしている。3.地域経済への貢献：稲蝦連育の規模の拡大に伴い、地域の水産加工会社の規模も増大し、更には水産業に関連する分野流通、輸出産業も発展している。

環境効果から見れば、1.稲わらや蝦殻などの廃棄物の再利用を通じ、環境汚染を抑制した。2.生物農薬を利用することで、農民の減農薬意識を上げた。3.灌漑面積と有効灌漑面積を拡大することで、水資源の有効利用をしている。

以上のように、稲蝦連育を通じ、小龍蝦産業の拡大が湖北省の地域経済及び農家収入の向上と環境保全に貢献していることが明らかにされた。中国の生態農業は、自然資源と環境を保全しながら、生産の増大においても追求し、それを通して農村において雇用を作り出し、生活と所得の安定性を維持向上させていることがわかる。